



カナダの携帯電話市場の動向

🕒 記事のポイント

サマリー	本稿では、まずカナダの携帯電話市場を概観した。次に、バンドルサービスやMVNO事業及びサブブランド(第2ブランド)の切り口で、合計シェア95%以上を占める主要3事業者の動向を紹介した。最後に、2007年3月に導入された携帯電話番号ポータビリティについて概説した。
主な登場者	CRTC Rogers Wireless Bell Mobility TELUS Mobility Virgin Mobile Canada Amp'd Mobile Canada
キーワード	携帯電話 バンドルサービス MVNO サブブランド FMS 番号ポータビリティ
地域	カナダ
執筆者	KDDI総研 調査1部 菅谷 知美 (xto-sugaya@kddi.com)

1 カナダの携帯電話市場の概観

1 - 1 通信市場の基礎データ

カナダは、ブロードバンド普及率が世界第9位の23.8%(2006年末現在)で、OECD(経済開発協力機構)加盟国の平均値16.9%や、日本の20.2%(世界第14位)を上回る。しかし、携帯電話普及率は約56%(2006年末現在)で、OECD加盟国の2004年平均値72%よりもかなり低い。カナダ統計局(Statistics Canada)のデータによると、2006年末現在、携帯電話及びページングの加入者数は約1804万加入で、固定電話回線数約1811万回線を超えていない。それでも、カナダ通信市場において、移動体通信は成長分野である。通信規制機関であるカナダ・ラジオテレビ通信委員会(Canadian Radio-Television Telecommunications Commission、以下「CRTC」)の年次報告書によると、2005年の移動体通信収入は、前年比約16%増の約110億ドル(約1兆2758億円^①)で、固定通信収入は前年比約2%減の約235億ドル(約2

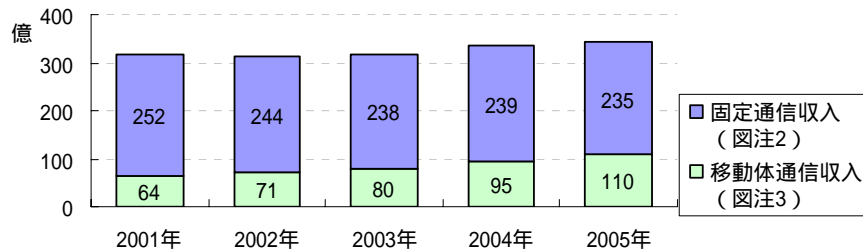


^①(換算率¹)

1カナダドル = 115.98円(2007年7月2日東京市場TTMレート)

兆7255億円)であった。2001年から2005年の電気通信収入の推移を【図表1】に示す。また、カナダと米国の通信市場基礎データの比較を【図表2】に示す。

【図表1】電気通信収入(図注¹)の推移 (カナダドル)



(図注¹) 電気通信収入は、端末機器の販売・非通信サービス収入を除く通信サービス収入。
 (図注²) 固定通信は、市内・長距離通話、インターネット及びデータ・専用線を含む。
 (図注³) 移動体通信は、基本音声サービス、長距離サービス、モバイルデータ、ローミング及びページングを含む。

(出典) CRTCのデータをもとにKDDI総研にて作成

【図表2】カナダと米国の通信市場基礎データ

	カナダ	米国
固定通信サービス収入(表注 ¹) (2006年実績値)	約214億USドル ☞(換算率 ²) (約2兆6384億円)	約1497億USドル (約18兆4565億円)
携帯電話サービス収入(表注 ²) (2006年推計値)	約101億USドル (約1兆2452億円)	約1320億USドル (約16兆2743億円)
人口	約3262万人 (2006年7月)	約3億134万人 (2007年3月推計)
ブロードバンド加入者数 普及率(2006年12月末)	7,675,533加入 (世界第9位) 23.8%	58,136,577加入 (世界第15位) 19.6%
携帯電話加入者数 普及率(2006年12月末)	18,541,160加入 55.7%	232,156,280加入 77.4%
CATV加入者数(2005年)	7,612,000加入	(表注 ³) 65,300,000加入

(表注¹) 卸売サービスを除く。

(表注²) 音声サービス、モバイルデータサービス収入の合計。

(表注³) ペーシック契約の年平均加入者数

(出典) Pyramid Research、JETRO、OECD Broadband Statistics、Informa Telecoms & Media's World Cellular Database、Statistics Canada及びNCTAのデータをもとにKDDI総研にて作成



☞(換算率²)

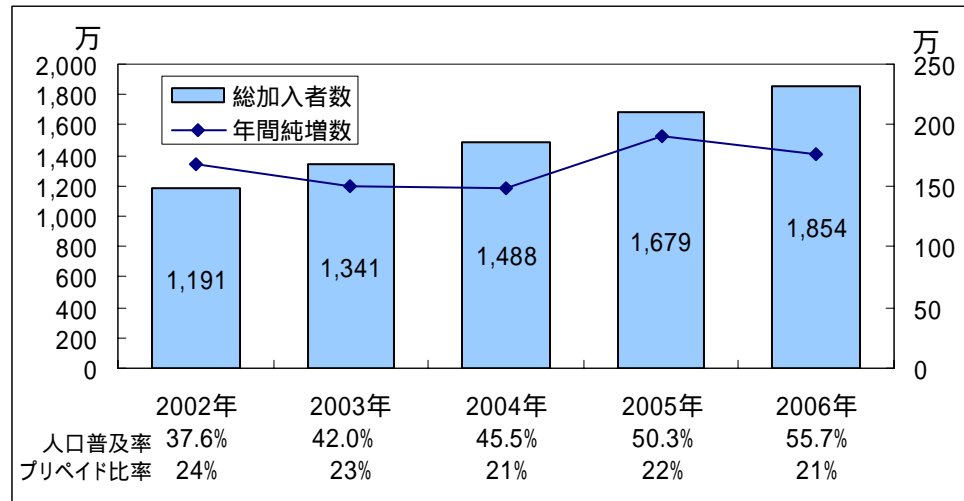
1USドル = 123.29円 (2007年7月2日東京市場TTMレート)

1 - 2 携帯電話加入者数の動向

英調査会社Informa Telecoms & Mediaによると、カナダの携帯電話加入者数は、2006年末で約1854万加入、人口普及率は約55.7%に達した。カバレッジは全国土の約20%であるが、人口カバー率は約97%に達しているとCRTCは報告している。また、カナダの移動体通信サービス・機器製造の業界団体であるCWTA（Canadian Wireless Telecommunications Association）は、大都市圏^{☞（参考）}での携帯電話人口普及率を80%近く（2006年末）と推計している。

【図表3】によれば、2006年、携帯電話加入者数は年間約175万人増加したが、年間純増数の推移をみると、成長は鈍化傾向にある。英調査会社Informa Telecoms & Mediaは、今後、人口普及率の上昇に伴い純増数は低下し、2011年には年間約100万人程度になると予測している。

【図表3】携帯電話加入者数と年間純増数の推移（2002年～2006年）



（出典）Informa Telecoms & MediaのWorld Cellular DatabaseをもとにKDDI総研にて作成

1 - 3 事業者別データ

カナダの携帯電話事業者には、全国事業者3社（Rogers Wireless、Bell Group及びTELUS Mobility）、地域事業者数社（MTS Mobility、SaskTel Mobility等）及びMVNO（Mobile Virtual Network Operator: 仮想移動通信事業者）がある。Bell Groupは、Bell Mobility、NorthernTel Mobility（Ontario州）、Telebec Mobility（Quebec州）及びMVNOのVirgin Mobile Canada（英Virgin Mobileとの合併会社。出資比率50:50）で構成されている。



☞（参考）

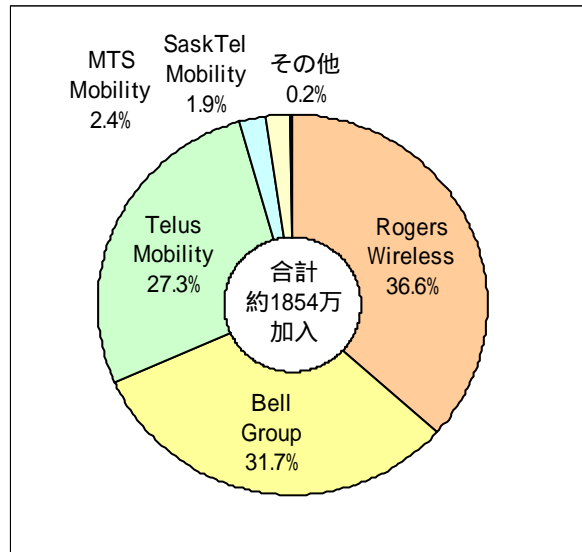
2006年7月現在、人口100万人を超える大都市圏は、東部のToronto、Montreal及びOttawa、西部のVancouver、Calgary及びEdmontonの合計6都市圏。

2006年12月末の事業者別シェアは、【図表4】のとおりである。全国事業者3社のシェアが95%以上を占める。

通信方式は、最大手Rogers WirelessのみGSMで、残りはCDMAである。

【図表5】に、各事業者の通信方式別加入者数、市場シェア、加入者あたりの平均収入（Average Revenue Per User、以下「ARPU」）及び解約率を示す。

【図表4】事業者別シェア（2006年12月末）



(出典) Informa Telecoms & MediaのWorld Cellular DatabaseをもとにKDDI総研にて作成

【図表5】事業者・通信方式別加入者数（2006年末）

事業者名	通信方式	加入者数 (表注1)	シェア	ARPU (表注2)	解約率 (表注2)
Rogers Wireless	GSM	6,547,500	36.6%	CA\$58.09	-
	US TDMA (表注3)	163,700			
	AMPS (表注3)	67,100			
Bell Group (表注4)	CDMA	5,773,700	31.7%	CA\$51.00	1.5%
	AMPS	99,300			
TELUS Mobility	CDMA	3,928,800	27.3%	CA\$63.00	1.33%
	iDEN (表注5)	1,059,500			
	AMPS	67,600			
SaskTel Mobility	CDMA	437,600	2.4%	CA\$55.90	-
	AMPS	3,000			
MTS Mobility	CDMA	332,760	1.9%	CA\$56.65	1.34%
	AMPS	22,500			
その他	AMPS	38,100	0.2%	-	-
合計		18,541,160			

(表注1) 加入者数にはMVNO等への卸売り分を含む。

(表注2) ポストペイドとプリペイドのブレンド値(加重平均値)。

(表注3) 2007年5月31日でサービス終了。GSMサービスへ移行。

(表注4) 傘下のMVNOであるVirgin Mobile CanadaのARPU及び解約率は、Bell Mobilityの出資比率に合わせて、50%分の加入者データが計上されている。

(表注5) Motorolaが開発した業務無線用デジタル通信方式。2000年に買収した旧Clearnet Communicationsのネットワーク。

(出典) Informa Telecoms & MediaのWorld Cellular Database及びレポート、各社年次報告書等をもとにKDDI総研にて作成

1 - 4 3Gサービス

カナダ初の3Gサービスは、2002年2月、Bell Mobilityが開始したCDMA2000 1x網によるサービスであった。同社は、2005年10月、CDMA2000 1x EV-DOサービスも開始した。その後、TELUS MobilityとEV-DO網拡大で協定を結び、2007年3月現在、人口の約60%をカバーするEV-DO網を展開している。

2007年4月、Bell MobilityがCDMA2000 1x EV-DO Rev.AサービスをOntario州で開始すると、TELUS Mobilityも、同年5月末にMontreal等3都市でRev.Aサービスを開始した。現在のところ、両社ともRev.A対応データカード向けのサービスに限っている。

一方、Rogers Wirelessは、2006年11月、Torontoを含むGolden Horseshoe地区でHSDPAサービスを開始した。現在、HSDPA対応端末は、韓Samsung電子製「A706」及び台湾メーカーHigh Tech Computer製「TyTN」を提供している。

2 大手3事業者の動向

最大手のRogers Wireless、第2位のBell Groupを率いるBell Mobility、及び第3位のTELUS Mobilityについて、バンドルサービス、MVNO事業及びサブブランド（第2ブランド）の動向を紹介する。はじめに、各事業者と親会社の概要を【図表6】に示す。

【図表6】大手携帯電話事業者と親会社の概要（2007年6月現在）

	親会社	親会社の概要	移動体収入 2006年（表注 ¹ ）
Rogers Wireless （表注 ² ）	Rogers Communications Inc.（以下「RCI」）	・本社Toronto ・カナダ最大のCATVシステム運用会社 ・移動体事業や放送事業のほか、長距離事業者等を買収し総合通信事業者へ。	CA\$45.8億 （約5312億円） 営業収入の52%
Bell Mobility	Bell Canada（表注 ³ ）	・本社Montreal ・カナダ最大手総合通信事業者 ・カナダ東部で人口の多いOntario州、Quebec州の地域通信事業者から事業を拡大。長距離通信、移動体通信、衛星通信、インターネット、メディア等の事業を総合的に展開。	CA\$34.9億 （約4048億円） 営業収入の20%
TELUS Mobility	TELUS Communications Company（以下「TCC」）	・本社Vancouver ・カナダ西部で人口の多いBritish Columbia州、Alberta州の地域通信事業者から総合通信事業者へ。	CA\$38.8億 （約4500億円） 営業収入の45%

（表注1）移動体収入は、携帯電話及びページングを含む。

（表注2）2007年7月1日付けで、親会社RCIがRogers Wirelessを吸収合併した。

（表注3）2007年6月30日、Bell Canadaの持株会社BCE Inc.は、Ontario Teachers' Pension Plan（オンタリオ教員年金基金）が率いるファンド連合による買収提案を受け入れると発表した。負債を含む買収総額は517億カナダドル（約6兆円）で、カナダの企業買収では過去最高となる。

（出典）RCI、BCE Inc.及びTELUS Corporationの年次報告書等をもとにKDDI総研で作成

なお、TELUS Mobilityは、2000年8月にClearnet Communications（以下「Clearnet」）を、Rogers Wirelessは、2004年11月にMicrocell Telecommunications（以下「Microcell」）をそれぞれ買収し、事業を拡大した。ClearnetとMicrocellは、1995年に事業免許を取得した新興携帯電話事業者であった。

2 - 1 バンドルサービス

RCIとBell Canadaは、グループ一体となり携帯電話を含むバンドルサービスを展開している(【図表7】参照)。RCIの「Better Choice Bundles」は、最大6サービスのうち、2つに加入すれば5%割引、3つに加入すれば10%割引、4つに加入すれば15%割引となる。一方、Bell Canadaの「Bell Bundles」は、最大4サービスのうち、2つに加入すれば5カナダドル(約580円)、3つに加入すれば10カナダドル、4つに加入すれば15カナダドルが、月々割引かれる。

【図表7】RCIとBell Canadaのバンドルサービス(2007年6月現在)

提供事業者		サービス名	サービス内容					
固定	携帯		市内	長距離	ブロードバンド	FWA (表注1)	携帯	映像 (表注2)
RCI	Rogers Wireless	Better Choice Bundles			ケーブルモデム			CATV
Bell Canada	Bell Mobility	Bell Bundles			ADSL/FTTH			衛星TV

(表注1) 2.3GHz、2.5GHz、3.5GHz帯を利用したPre-WiMAXによるFixed Wireless Access。RCIとBell Canadaの合弁会社(出資比率50:50)「Inukshuk Wireless」が、2006年3月よりサービスを開始。

(表注2) CATVは「Rogers Personal TV」。衛星TVは「ExpressVu」(Bellグループ)。

(出典) 各社情報を参考にKDDI総研にて作成

【コラム】「Bundles」で組み合わせてセット割引

カナダでは、ケーブルモデムによるブロードバンド接続の比率が高い。住宅向けブロードバンド(通信速度1.5Mbps以上)の加入者数は、2005年末現在、約643万人に達し、そのうち、CATV事業者のシェアは53.9%、既存通信事業者(ADSL)のシェアは41.6%であった。大手CATV事業者は、RCI、Shaw Communications(以下「Shaw」)、Videotron及びCogeco Cableの4社である。

大手CATV事業者のブロードバンド加入者数(2007年第1四半期)

事業者名	加入者数	備考
Shaw	1,389,333	2007年2月末。設置待ち回線数を含む。西部5州で営業。
RCI	1,338,700	2007年3月末。東部3州で営業。
Videotron	828,000	2007年3月末。Quebec州で営業。
Cogeco Cable	392,443	2007年2月末。Ontario州及びQuebec州で営業。
合計	3,948,476	

(出典) 各事業者データをもとにKDDI総研にて作成

上述の4社は、2005年より電話サービスへ本格参入し、2006年、積極的にトリプルプレイ(CATV、ケーブルモデム接続のブロードバンド及びケーブルVoIP)を展開した。「Shaw Bundles」等、「Bundles」で加入サービスを組み合わせてセット割引の適用を受けることは、カナダの消費者の間に広く浸透している。

RCIは、「Better Choice Bundles」を2004年下期より継続提供している。一方、Bell Canadaは、2003年から2005年9月まで「The Bundles from Bell」を提供し、その後は「Bell Flexible Combos」等の特典付きパッケージを展開していた。しかし、初回

3カ月ブロードバンド無料等の特典に対する反響は薄かったようである。同社は、2007年5月から6月まで、月々の割引額を一定にした「Bell Bundles」を導入した。サービス名に「Bundles」を復活させた背景について、Bell Canadaコンシューマーサービス部門のKevin Crull氏は、同社ホームページ内の検索記録に「bundle」が多く、カスタマーセンターで顧客に「Combo Package」を案内しても「bundle」を希望されるような状態であったため、と話している^④（出典）。

2 - 2 MVNO事業

米調査会社Pyramid Researchによると、カナダのMVNO加入者数は、2006年末現在、携帯電話加入者数全体の約1.3%にあたる、約23万9000加入と推計されている。主要なMVNO事業をネットワーク提供事業者別に【図表8】に示す。

【図表8】カナダの主要MVNO事業（2007年6月現在）

MVNO	親会社（本業）	開始時期	支払	ターゲット層
ネットワーク提供事業者 Rogers Wireless				
CityFone ^{（表注1）}	CityFone Telecommunications（通信再販）	1998年7月	ポストペイド	ローエンド
Primus Wireless ^{（表注1）}	Primus Telecommunications（通信再販）	2004年10月	ポストペイド	コンシューマー法人
7-ELEVEN SpeakOUT Wireless ^{（表注2）}	セブン&アイ・ホールディングス（小売業）	2005年11月	プリペイド	ローエンド
Petro-Canada Mobility	Petro-Canada（ガソリンスタンド）	2006年夏	プリペイド	ローエンド
Videotron	Quebecor Media（CATV）	2006年8月	ポストペイド	CATV顧客
ネットワーク提供事業者 Bell Mobility				
Virgin Mobile Canada	Virgin Group（小売業、IT他）/ Bell Canada（通信）	2005年3月	プリペイド	ローエンド 30歳位までの若年層
PC Telecom ^{（表注3）}	Loblaws（小売業）	2005年8月	プリペイド	ローエンド
ネットワーク提供事業者 TELUS Mobility				
Amp'd Mobile Canada	Amp'd Mobile（米MVNO）	2007年3月	ポストペイド	ハイエンド 18～25歳の若年層

（表注1）当初は旧Microcell（現Rogers Wireless）がネットワークを提供。

（表注2）2006年12月よりCDMA端末を追加したが、CDMA網の提供事業者は不明。

（表注3）PCは「President's Choice」（スーパーマーケットLoblawsのブランド名）の頭文字。

（出典）各社情報を参考にKDDI総研にて作成



^④（出典）

"Bell brings back the bundle", Globe and Mail（2007年5月15日記事）

2007年3月、米MVNOのAmp'd Mobileは、イベント・音楽・ゲームの配信を売りに、Amp'd Mobile Canadaを立ち上げた。TELUS MobilityがEV-DO網を提供し、TELUS Ventures（TCCグループ）が米Amp'd Mobileに750万USドル（約9億2468万円）の株式投資を行った。

【図表9】Amp'd Mobile Canadaの端末



「MotoRAZR」 「MotoQ」

（出典）Amp'd Mobile Canadaのホームページ

しかし、2007年6月1日、米Amp'd Mobileは、インフラが急成長する需要に追いつかなかったとして、米国連邦破産法第11章（Chapter 11）に基づき、会社更生手続きを申請した。債権者には、米Verizon Wireless、米Motorola、仏メディア企業Vivendi等が名を連ねている。なお、Amp'd Mobile Canadaは破産申立てを行っておらず、これまで通り営業を続ける意向であると発表した。

【コラム】携帯電話サービスの料金構造

カナダの携帯電話の基本的な料金は、以下の5項目で構成されている。

基本月額料：通話等とのセットプランが主流

利用料： に含まれない市内通話、長距離通話、テキストのみのショートメッセージサービス（SMS）、写真や動画付きのマルチメディアメッセージサービス（MMS）、Email、データサービス、ローミングにかかった料金

システムアクセス費：月額6.95～8.95カナダドル（約810～1,040円）

E911費：月額0.50～0.75カナダドル（約60～90円）

国税及び州税： ～ の小計の6～15%（州により異なる）

のシステムアクセス費は、ネットワークの拡大やアップグレード等の目的で、カナダの携帯電話事業者がユーザーに請求している。月額6.95カナダドル（約810円）が一般的であったが、Bell MobilityやMTS Mobilityは、事前通知の上、2007年1月分より月額8.95カナダドル（約1,040円）に値上げしている。

のE911費は、高度緊急通報システム（E911）の導入費として、カナダの携帯電話事業者がユーザーに請求している。E911サービスは、通報者の所在地（基地局ベース）が自動的にセンターに送られる仕組みで、Ontario州など4州で稼働している。この他の地域では、通報者が救援場所を伝える911サービスとなる。

システムアクセス費やE911費は、料金表の注意書きに記載されていることが多く、隠れた月額「Hidden Monthly Charge」と言われることがある。

なお、カナダの携帯電話番号は、固定電話と同じ番号体系（市外局番3桁＋電話番号7桁）である。通話を受けた側が、着信側の携帯電話網の利用に係るエアタイム・チャージを支払うReceiving Party Pays（RPP）方式が採用されている。また、長距離通話料が適用されるケースは、以下の3種類が基本となる。

例）Vancouver（市外局番604）の携帯電話加入者の場合

1. Vancouver（604圏内）から、604以外の市外局番へ発信する
2. Calgary（市外局番403）から、403以外の市外局番へ発信する
3. Calgary（市外局番403）で着信する

2 - 3 サブブランド

大手3事業者のサブブランド(第2ブランド)は、【図表10】のとおりである。最初からサブブランドとして作られたのはBell Mobilityの「Solo Mobile」のみで、「Fido」は旧Microcellのブランド名、「Mike」は旧Clearnetのブランド名である。

【図表10】カナダ大手3事業者のサブブランド

			
サブブランド名	「Fido」	「Solo Mobile」	「Mike」
ネットワーク (開始時期)	 GSM網 (2004年)	 CDMA2000 1x網 (2005年)	 iDEN網 (2000年)
ターゲット	都会の若年層	若年層	ビジネス顧客
料金プラン	定額プラン・プリペイド	定額プラン・プリペイド	通話とPTTの定額プラン

(ロゴ出典) Rogers Wireless、Bell Canada、TELUS、Fido、Solo Mobileのホームページ
(出典) 各社情報を参考に、KDDI総研にて作成

Rogers Wirelessのサブブランド「Fido」(<http://www.fido.ca>)

Rogers Wirelessは、2006年8月、大都市住民向けのFMS(Fixed-Mobile Substitution: 携帯による固定の代替)型サービス「Fido Urban」を導入した。「Fido Urban」では、特定のローカルゾーン[☞](用語解説)内通話が一定分数まで無料となる。同サービスの原型は、旧MicrocellのFMS型サービス「City Fido」(旧Microcellの継続利用者にもみ提供)である。【図表11】に両サービスの主な違いを挙げる。

【図表11】「Fido Urban」と「City Fido」の主な違い

	Fido Urban	City Fido
ローカルゾーン	市内中心部に限定 ^(表注)	市内全域
ローカルゾーン外での通話料	30セント/分	20セント/分
システムアクセス費 ^(コラム 参照)	月額料金に含まれない	月額料金に含まれる

(表注) City Fidoが提供されている都市にのみ、第2ローカルゾーン「Suburban」をオプションで設定できる。

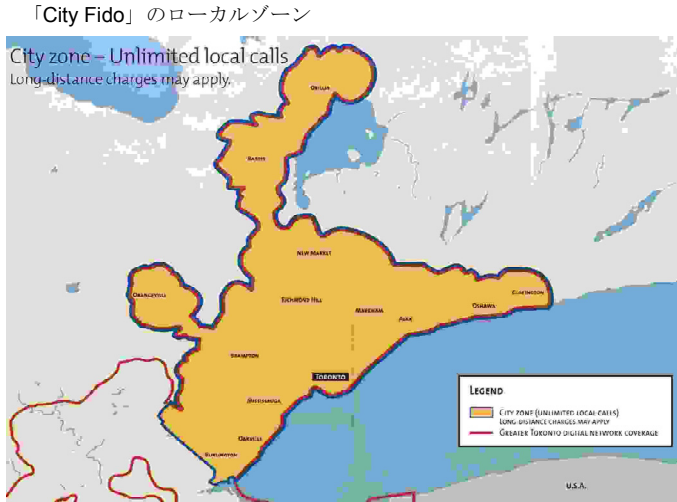
(出典) 各社情報等を参考にKDDI総研にて作成



☞ (用語解説) ローカルゾーン

半径数百メートルから数キロの領域。この領域から発信された通話を携帯電話事業者が識別することにより、その通話に限って特別な料金等を適用することが可能となる。この領域の名称は通信事業者によって異なる。

【図表12】 Toronto市のローカルゾーン

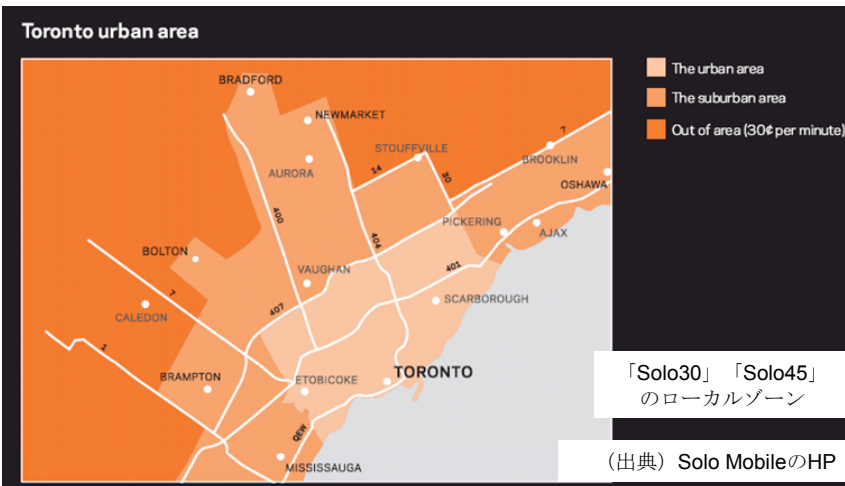


(出典) 旧MicrocellのHP



- The Urban zone
- The Suburban Zone option
- The integrated wireless network (30¢ per minute)

(出典) FidoのHP



(出典) Solo MobileのHP

Bell Mobilityのサブブランド「Solo Mobile」 (<http://www.solomobile.ca>)

Bell Mobilityは、2005年7月、13～24歳の若年層を対象にした格安プラン、プリペイドサービス、及び1日1カナダドルのPush-to-Talk (PTT) サービス「10-4」を提供するサブブランド「Solo Mobile」を立ち上げた。これは、2005年3月に若年層向けプリペイドサービスを開始したMVNOのVirgin Mobile Canadaを意識したものである。

2006年、「Solo Mobile」では、Rogers Wirelessの「Fido」に追随するようにFMS型サービスが導入された。「Solo Mobile」はEV-DO網、「Fido」はGSM/GPRS/EDGE網とネットワークは異なるが、ローカルゾーン「Urban」「Suburban」の実際のエリア等、両者のFMS型サービスは類似している(【図表12】【図表13】参照)。また、新たに追加された端末は、PTTサービス「10-4」に対応しないことから、「Solo Mobile」のターゲットは、「Fido」の客層へ変更されたと考えられる。

【図表13】 Rogers WirelessとBell MobilityのFMS型サービスの比較 (2007年6月現在)

事業者	Rogers Wireless		Bell Mobility
サービス名	Fido Urban	City Fido (表注1)	Solo 30 / Solo 45
提供都市	Vancouver, Victoria Calgary, Edmonton Toronto, Ottawa London Montreal, Quebec City	Vancouver Toronto Montreal	Vancouver Calgary, Edmonton Toronto, Ottawa London Montreal, Quebec City
月額料金	30カナダドル(表注2) 45カナダドル(表注2)	45カナダドル 75カナダドル	30カナダドル(表注2) 45カナダドル(表注2)
ゾーン内着信料	無料	750分まで無料	無料
ゾーン内発信料(表注3)	400分まで無料 750分まで無料	1500分まで無料	400分まで無料 750分まで無料
ゾーン外発信料(表注4)	30セント/分	20セント/分	30セント/分
システムアクセス費	6.95カナダドル	月額料金に含まれる	6.95カナダドル

(表注1) 2003年10月から旧Microcellが提供。現在は、旧Microcell加入者の継続利用者のみ。

(表注2) Vancouver、Toronto及びMontrealには、オプションで第2ローカルゾーン「Suburban」を追加できる。「Suburban」の月額料金は5カナダドル。

(表注3) 無料発信分を超えると通話料は30セント/分。長距離料金は別途必要。

(表注4) 長距離料金やローミング料金は別途必要。

(出典) 各社情報等を参考にKDDI総研にて作成

TELUS Mobilityのサブブランド「Mike」

TELUS Mobilityは、通話とPTTサービス「Mike Direct Connect」(iDEN網)の定額プランを、「Mike」ブランドで提供している。米加国境をまたぐビジネスに携わる法人向けに、米加間の通話とPTTサービスを含むプランもある。なお、2005年以降、他の事業者も、CDMA網上で機能するPTTサービスを導入している(【図表14】参照)。

【図表14】カナダの主なPTTサービス

事業者名	サービス名	ネットワーク	北米・中南米のサービス地域
TELUS Mobility	Mike Direct Connect	iDEN	米Sprint Nextel及びNII Holdings (表注 ¹)のiDEN網エリア
	Instant Talk	CDMA2000 1x	米国のローミングエリア
Bell Mobility (表注 ²)	10-4	CDMA2000 1x	米Sprint Nextelの1x網エリア
MTS Mobility	Press2Talk	CDMA2000 1x / EV-DO	米国のローミングエリア

(表注1) 旧Nextel International。ブラジル、メキシコ、アルゼンチン、チリ及びペルーで事業を展開。

(表注2) Bell GroupのNorthernTel Mobility及びTelebec Mobilityも、PTTサービス「10-4」を提供。

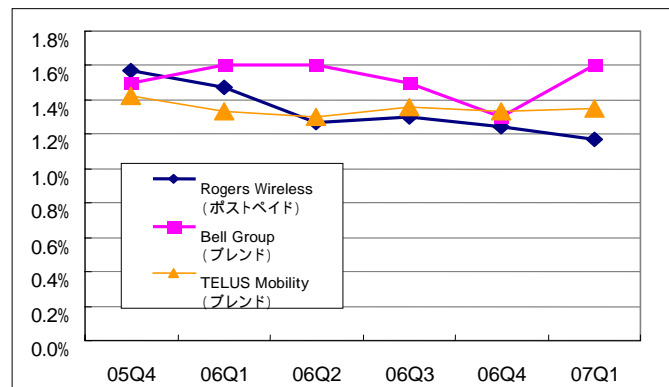
(出典) 各社情報を参考にKDDI総研にて作成

3 ナンバーポータビリティ導入

カナダの携帯電話番号ポータビリティ制度 (Wireless Local Number Portability、以下「WLNP」) は、2007年3月14日から、固定電話番号ポータビリティ制度 (Local Number Portability、以下「LNP」) の導入地域^(脚注) でスタートした。米国と同様、固定電話と携帯電話間のポートも可能である。

現在のところ、CRTCやCWTAは、WLNPの利用者数を発表していない。大手各事業者は、2007年第1四半期の業績発表で、WLNPの事務処理トラブルはなかったとコメントするにとどめている。【図表15】は大手3事業者の解約率推移である。Bell Canadaは、2007年第1四半期の解約率増加について、「利用されていないプリペイド番号の解約処理タイミングを早めたため」と説明している。

【図表15】大手3事業者の解約率推移



(出典) 各事業者データをもとにKDDI総研にて作成



(脚注)

全国の都市圏。LNPは、1998年より地域ごとに順次導入されている。

事業者の中で、唯一WLNPの宣伝に積極的であったのは、MVNOのVirgin Mobile Canadaである。同社は、カウントダウン時計付きのサイト（www.youcanswitch.ca【図表16】）を開設し、現在加入している事業者との長期契約満了日を登録した希望者に対して、契約満了日が近いことをE-mailで通知している。

また、英Virgin GroupのRichard Bronson卿は、WLNP開始日の3月14日に、空中牢から脱出するスタントショーをTorontoで実演した。

【図表16】



（出典）Virgin Mobile Canadaが開設したサイト
（www.youcanswitch.ca）

ライバル事業者を暗示するイラスト。左から、TELUS Mobility、Fido、Bell Mobility、Rogers Wirelessを示していると考えられる。Fidoは、飼い犬によく用いられる名前で忠犬を意味する。

2007年3月中旬、カナダ調査会社TNSは、1,017人の成人を対象に、WLNPに関する電話調査を実施した。調査結果によると、「WLNPを知っている」は半数以上であった。携帯電話利用者482人のうち、「現在の契約期間が終了したらWLNPを利用して事業者を変更する（かもしれない）」と回答したのは、19%であった。

WLNPの反響が低い一因に、大手事業者の割引付き長期契約（1～3年）が挙げられる。2005年12月、CRTCがWLNPの開始日を2007年3月14日と決定すると、大手事業者らは、カップルプランや家族プラン等、割引付き長期契約を積極的に導入し、加入者を囲い込んだ。WLNPの影響が現れるには、しばらくかかりそうである。

📖 執筆者コメント

2004年11月、Rogers WirelessがMicrocellの買収を完了し、カナダの新興携帯電話事業者は、2社とも大手事業者に吸収される結果となった。それ以降、事業者の横並び傾向は強まっている。カナダ全国紙Globe and Mailによると、大手携帯電話事業者の月額料金は1カナダドル（約116円）程度の差で拮抗している^④（出典）。大手各社は、グループ内の固定通信事業で固定電話回線の減少が進んでおり、固定電話と競合するほどの携帯電話サービスの値下げには消極的とみえる。



④（出典）

”Why talk ain't cheap, especially in Canada?”, Globe and Mail（2006年11月22日記事）

カナダ産業省（Industry Canada）は、2007年2月、携帯電話サービス向け2GHz帯周波数オークションに関する諮問文書を発表した。これに対し、新規参入枠の設定や既存事業者のローミング対応義務を求める勢力と、制約のないオークションを主張する既存事業者らが、それぞれ同省へ意見を提出した。同省は、2007年末までにオークションの入札ルールや技術要件を策定し、2008年にオークションを実施する計画である。追加免許が市場にどのような影響を及ぼすのか、注目していきたい。

📖 出典・参考文献

カナダ産業省ホームページ（<http://strategis.ic.gc.ca/>）

CRTCホームページ（<http://www.crtc.gc.ca/eng/welcome.htm>）

CWTAホームページ（<http://www.cwta.ca/CWTASite/english/industryfacts.html>）

Angus TeleManagementニュース（<http://www.angustel.ca/>）

Globe and Mail（<http://www.theglobeandmail.com/>） 関連記事

国際通信経済研究所（RITE）「海外通信白書2007」

国際通信経済研究所（RITE）「諸外国デイリーニュース」 関連記事

KDDI総研けいれぼ各号、R&A各号

KDDI総研デイリー・トピック 関連記事

各事業者ホームページ

【執筆者プロフィール】

氏 名：菅谷 知美（すがや ともみ）

所 属：調査1部 制度・政策グループ 研究員

専 門：北米を中心とした主要国の通信市場に関する調査研究

Email：xto-sugaya@kddi.com